

教 授 要 目

昭 和 3 8 年 度



小 樽 商 科 大 学

小樽商科大学教授要目

目次

I 授業科目履修方法	1
1 昭和38年度開設科目	1
2 履修方法	3
II 教授要目	5
1 一般教育科目	5
2 外国語科目	11
3 保健体育科目	17
4 専門教育科目	18
5 教職に関する専門科目	31
6 管理科学科目の履修に関する注意事項	34

I 授業科目履修方法

1, 昭和38年度の開設科目は次の通りである。

区分	授業科目	単位	年度	担当教官	備考
一般教育	哲学	4	II	川村教授	
	倫理学	4	I	〃	
	心理学	4	II	馬場講師	
	日本文学	4	I	広田助教授	
	外国(仏)文学	4	II	松尾教授	
	外国(独)文学	4	II	関講師	
	外国(英)文学	4	I・II	飛田助教授	
社会科学	日本文化史	4	I	広田助教授	
	社会学	4	I	浜林助教授	
	法学概論	4	I	中川講師	
	憲法論	2	II	桑原助教授	(後期)
社会科学	◎経済学概論	4	I	早見講師	(前期)
	◎商業概論	4	I	藤井講師 岡本教授	(後期予定)
自然科学	◎数理学	4	I	武隈教授	
	物理学	4	I	小宮講師	(北海道学芸大学助教授)
	生物学	4	I	向川講師	(北海道大学理学部)
	化学	4	I	斎藤助教授	
外国語科目	◎英語(1)	12	{I II}	(備考参照)	
	英語(2)	4	III・IV	脇田助教授	
	英英(2)	4	〃	マクラウド講師	(外国人講師)
	英文学	4	I・II	飛田助教授	
	◎独語	8	{I II}	関講師 オピッツ講師	(外国人講師)
	◎仏語	8	{I II}	松尾教授 大黒講師	(北海道大学講師)
	◎中国語	8	{I II}	川上教授	
	◎露語	8	{I II}	松本講師	
◎西語	8	{I II}	一色助教授		

保体科	◎実	技	2	I	杉山 講師 (須貝 講師)	(非常勤講師)
健育目	◎講	義	2	II	{杉山 講師 山口 講師}	(前期) (小樽協会 病院内科医長)
専 門 教 育 科 目	◎民	法I	4	II	相原 講師	(小樽商大短大 助教授)
	◎商	法II	4	III	中川 講師	(前期) (一橋大教授)
	◎商	法I	4	III	{※喜多教授 実方 講師}	(後期)
	◎商	法II	2	IV	実方 講師	
	◎経	際 法	4	IV	桑原 助教授	
	◎統	計 学	2	III・IV	実方 講師	(大阪市立大学教授)
	◎統	計 学	4	II	竹内 助教授	予定
	◎経	理 統 計 学	4	I III IV	沼田 講師	
	◎経	済 原 論	4	II	藤井 講師	(後期予定)
	◎経	済 変 動 論	4	IV	地主 助教授	
	◎経	済 学	4	IV		(担当者未定)
	◎経	済 史 概 論	4	II	浜林 助教授	
	◎財	政 学	4	III	早見 講師	
	◎国	際 経 済 論	4	IV	麻田 助教授	
	◎商	業 英 語	4	III	木曾 教授	
	◎金	融 経 済 論	4	III	阪口 助教授	
	◎銀	行 論	4	IV	藤沢 教授	
	◎保	險 論	4	IV	久木 教授	
	◎証	券 市 場 論	4	IV	進藤 講師	
	◎証	券 金 融 論	2	III・IV	住ノ江 講師	(神戸大学教授)
	◎経	営 経 済 学	4	II	室谷 講師	(小樽商大短大教授)
	◎簿	記 学	4	II	久野 講師	
	◎商	業 数 学	4	I III IV	武隈 教授	
◎会	計 学	4	III	石河 教授		
△応	用 数 学 I	4	II	戸島 講師		
△応	用 数 学 II	4	II	古瀬 教授		
△応	用 数 学 III	4	II	沼田 講師		
◎経	済 学 特 殊 問 題	4	II・III	降旗 講師	(北海道大学講師)	
◎研	究 指 導	12	III・IV	専門科目担当教官		
◎職	業 指 導	4	III	阿部 講師	(非常勤講師)	

専 門 科 目	◎日	本 経 済 史	4	III・IV	室谷 講師	(小樽商大短大教授)
	◎農	業 経 済 学	4	III・IV	藤沢 教授	
	◎社	会 政 策	4	IV	吉武 助教授	
	◎海	外 証 券 事 情	2	III・IV	岡林 講師	(野村証券海外企画 調査課長) 予定
専 門 科 目	◎工	場 経 営	4	III	伊藤 助教授	
	◎財	務 管 理	4	IV	古瀬 教授	
	◎原	価 計 算 論	4	III	久野 講師	(甲南大学教授)
	◎監	査 論	2	III・IV	近沢 講師	
教 職 に 関 す る 科 目	◎教	育 原 理	3	I	田中 講師	
	◎教	育 心 理	3	I・II	馬場 講師	
	◎商	業 科 教 育 法	3	II	金巻 講師	(小樽商大短大教授)
	◎教	育 実 習	2	III	〃 〃	(〃 〃)
	◎教	育 史	3	III	田中 講師	

備考

- 表中、◎印は必修科目を示す。
- 表中、○印は選択必修科目を示す。
- 表中、※印は集中講義を示す。
- △印は38年度より開設した管理科学系列に属する科目である。
- 英語(1)の担当教官は次のとおりである。
木曾教授、脇田助教授、飛田助教授、久納講師、宇賀治講師、スミス外国人教師、北村講師(小樽商大短大助教授)、野尻講師(北大文学部助教授)マクラウド講師(外国人講師)
- 英語(2)、英語学および英文学は高等学校英語科二級普通免許状取得のための必修科目であると共に一般学生の課外科目としての履修参加も認められる。
また、英文学は一般教育科目、外国(英)文学と同じ講義であり履修生の希望によりどちらか一方の単位となる。

2. 学生は4年間に在学し下記各項に示すところに従い、単位を修得することによつて卒業資格が与えられる。

(1) 一般教育科目

一般教育科目は人文科学、社会科学、自然科学の3系列につき、それぞれ3科目12単位以上を履修しなければならない。

なお、社会科学系列の経済学概論、商業概論は昭和33年度以前入学者を除く全学生の必修科目、自然科学系列の数学は全学生に対しての必修科目となつており、社会科学系列の憲法(2単位)は、高等学校(商業科および英語科)二級普通免許状を取得する学生についてのみ必修となつ

ている。

また文学の単位は日本文学，外国文学のうち，いずれか1科目だけが卒業のための所要単位数に算入される。

(2) 外国語科目

英語(1)は1年度，2年度の各年度毎に毎週6時間履修し，担当教官（各クラス3名）の総合成績が合格することによつて年度毎の6単位が与えられ，合計12単位を必修とする。（別表参照）

英語以外の外国語（独，仏，中，西，露の各外国語）は，いずれか1カ国語を選択必修とし，毎週4時間，年度毎（1，2年度）4単位計8単位を履修しなければならない。

(3) 保健体育科目

体育は実技2単位（1年度），講義2単位（2年度）を必修とする。

(4) 専門教育科目

専門教育科目は84単位以上（職業指導を除き）を履修しなければならない。

なお，専門科目中，民法I，商法I，統計学，経済原論，経済史概論，経営経済学，簿記学および会計学各4単位は昭和33年度以前入学者を除く全学生に対する必修科目となつている。

また，高等学校商業科（英語科は該当せず）二級普通免許状を取得する学生については，上記84単位の外，職業指導を必修とする。

研究指導は毎週3時間，3年度からの2カ年継続授業12単位（卒業論文を含む）で専門教育科目84単位中に含まれる。

研究指導に参加しない学生は研究指導12単位分を，他の専門教育科目の履修によつて充足し，84単位以上を履修しなければならない。

学生は，3年度から経済学専攻と商業学専攻とに分れるが，他学専攻の専門科目は卒業の単位には算入されない。従つて専門教育科目は各人の所属する専攻の専門科目と共通専門科目について84単位以上を修得しなければならない。

(5) 商業教員養成課程

商業教員養成課程（以下教職課程という）の履修を条件として入学した学生は，上記の外，高等学校商業科二級普通免許状取得の資格を得ることも卒業のための条件となつているから注意を要する。

その他，単位の修得要領については，次頁の別表を参照すること。

単位修得要領一覧表

種 別	科目 区分	一般教育科目				保健体育科目			外国		
		人文 科学	社会科学	自然科学	計	実技	講義	計	英		
									英語(1) I	英語(1) II	英語(2) 英語学
A 一般学生	12	12 (経済学概論 商業概論)必修	12 (数学必修)	36	2	2	4	6	6		
B 商業教員養成課程(教職課程)を履修条件としての入学者	12	12 (経済学概論 商業概論)必修 憲法	12 (数学必修)	36	2	2	4	6	6		
C 高等学校英語科二級普通免許状取得希望者	12	12 (経済学概論 商業概論)必修 憲法	12 (数学必修)	36	2	2	4	6	6	12	

- 注
- 1 表中の単位は総て最低所要単位数を示したものである。
 - 2 A, B欄はそれぞれ卒業を条件とする最低所要単位数である。
 - 3 教職課程以外の一般学生で，高等学校商業科二級普通免許状の取得を希望者はB欄によればよい。
但し，その場合はB欄中，A欄以外の科目の単位は卒業条件とは関係がない
 - 4 A欄該当者がC欄によつて単位を修得した場合は，C欄中のA欄以外の科目単位は卒業条件とは関係がない。

単位修得要領一覧表 (最低所要単位数)

科目 区分	一般教育科目				保健体育科目			外国語科目						専門教育科目	教職に関する専門科目	合計					
	人文 科学	社会科学	自然科学	計	実技	講義	計	英語			英語以外の 外国語						計				
								英語(1)		英語(2) 英語学	英文 学	小計	I					II	小計		
								I	II												
A 学生	12	12 (経済学概論 商業概論) 必修	12 (数学必修)	36	2	2	4	6	6			12	4	4	8	20	84	民法I, 商法I, 統計学, 経済原論, 経済史概論, 経 営経済学, 簿記学, 会計学 を必修とする。他学専攻専 門科目, 職業指導を除く。		144	
B 教員養成 教職課程 履修条 件の入	12	12 (経済学概論 商業概論) 必修 憲 法	12 (数学必修)	36	2	2	4	6	6			12	4	4	8	20	88	職業指導, 民法I, 商法 I, 統計学, 経済原論, 経済史概論, 経営経済学, 簿記学, 会計学を必修とす る。他学専攻専門科目を除 く。	14 教育原理 3単位 教育心理 3単位 商業科教育法 3単位 教育実習 2単位 教育社会学 3単位 教育史 3単位 教育統計 3単位	必修 選択	162
C 学校英語 及普通免 許状希望	12	12 (経済学概論 商業概論) 必修 憲 法	12 (数学必修)	36	2	2	4	6	6	12	8	32	4	4	8	40	84	民法I, 商法I, 統計学, 経済原論, 経済史概論, 経 営経済学, 簿記学, 会計学 を必修とする。他学専攻専 門科目, 職業指導を除く。	14 教育原理 3単位 教育心理 3単位 英語科教育法 3単位 教育実習 2単位 教育社会学 3単位 教育史 3単位 教育統計 3単位	必修 選択	178

- 1 表中の単位は総て最低所要単位数を示したものである。
- 2 A, B欄はそれぞれ卒業を条件とする最低所要単位数である。
- 3 教職課程以外の一般学生で, 高等学校商業科二級普通免許状の取得を希望する者はB欄によればよい。
但し, その場合はB欄中, A欄以外の科目の単位は卒業条件とは関係がない。
- 4 A欄該当者がC欄によつて単位を修得した場合は, C欄中のA欄以外の科目の単位は卒業条件とは関係がない。

- 5 B欄該当者がC欄をも履修しようとする場合はC欄中のB欄以外の科目の単位は卒業条件とは関係がない。
- 5 表中, 「英語以外の外国語」とは独語, 仏語, 中国語, 西語, 露語を示す。
(うち1科目選択必修)

II 教授要目

1. 一般教育科目

哲 学

教授 川 村 三千雄

- (1) 哲学の意義, 方法
- (2) 哲学の問題
 - a) 哲学思想史の中に見出される問題。
 - b) 現実的人生の中に見出される問題。
- (3) 現代の哲学思想の問題史的解明。

倫 理 学

教授 川 村 三千雄

- (1) 倫理学の基礎的概念について。
- (2) 人間と人哲の概念について。
- (3) 倫理学の基本的問題の若干についての考察。
- (4) 現実の道德問題について。

心 理 学

講師 馬 場 道 夫

心理学は現代生活に最も必要な知識となつた。現代文化人のための教養として行うのが第1点。第2には、産業心理学の基礎コースであること。第3は、諸社会科学の基礎を提供すること。上記3点が本講の目的である。今年度は、動機、認知、性格、社会心理に重点をおく。

第1章 心理学概観(歴史, 方法, 分野)

第2章 行動の基礎

第3章 動 機

第4章 社会的動機

第5章 感 情

第6章 適応と異常

第7章 学 習

第8章 感 覚

- 第9章 認 知
- 第10章 言語と思考
- 第11章 知 能
- 第12章 性 格
- 第13章 集団内行動
- 第14章 社会的行動
- 第15章 経済的行動

教科書は使用しないが、参考書として下記のものを用いる。

矢田部 達 郎 心理学初歩
高 木 貞 二 心 理 学

日本文学

助教授 広 田 二 郎

西鶴文学論

- 1 創造と伝統
- 2 文学精神
- 3 方法の展開

資料 好色一代男，日本永代蔵，西鶴置土産

外国（仏）文学

教 授 松 尾 正 路

フランス文学史

外国（独）文学

講 師 関 徹 雄

ドイツロマン派から話し始める。文芸の流派を精神史として考察する。

外国（英）文学

助教授 飛 田 茂 雄

英国文学史（プリント使用）

注一外国語科目の英文学と同じ講義であり，履修生の希望する一方の単位となる。

日本文化史

助教授 広 田 二 郎

原始，古代，中世，近代の各時代における最も重要な文化についての考察を通して，日本文化の史的展開と性格を明らかにする。

社会学

助教授 浜 林 正 夫

- 〔I〕 社会学の成立
 - (イ) 近代社会思想
 - (ロ) 社会学のはじまり
- 〔II〕 社会学の発展
 - (イ) 形式社会学
 - (ロ) 文化社会学
 - (ハ) マルクス・レーニン主義の社会観
- 〔III〕 現代社会の諸問題
 - (イ) 社会集団
 - (ロ) 社会体制
 - (ハ) 技術と文化
 - (ニ) 自己疎外

法学概論

講 師 中 川 良 延

私法を中心に次の順序で行う。

- 1, 法の概念と法律学の方法論
- 2, 家族に関する法
- 3, 所有権および契約に関する法
- 4, 企業に関する法
- 5, 労働関係についての法
- 6, 司法制度と訴訟に関する法

教科書：中川善之助・木村亀二編「法学概論」勁草書房

憲 法

助教授 桑 原 輝 路

I 序 論

II 統治の原理

1. 日本国憲法における統治の原理
2. 民主主義的統治の制度
3. 自由主義的統治の制度

III 統治の機関

1. 国民
2. 天皇
3. 国会
4. 内閣
5. 裁判所

IV 戦争の放棄

V 基本的人権

経済学概論 (前期)

講師 早見 弘

(後期)

講師 藤井 栄一

テキスト P. A. Samuelson, *Economics: An Introductory Analysis*
(Asian Students' Edition, 5th ed., 1961)

1. 前期では、第I部第1章～4章、第III部・第IV部による価格理論を講義する。
2. 後期では、国民所得分析を講義する予定である。
3. 履修者は、当該講義箇所およびその他の部分を、確実に読まなくてはならない。

商業概論

教授 岡本 理一

商業に関する一般的解説を行い、以て現代商業の研究に必要な準備的、基礎的知識をあたえることを目的とする。

1 商業の学問

- (1) 学問とは何か
- (2) 商業学の発達

2 商業の起源とその発達

- (1) 商業の発生
- (2) 階段的発達
- (3) 機能別発達

3 商業の概念

- (1) 現代の商業学説と批判
- (2) 現代商業の分類

4 現代の商業構造

- (1) 商業の主体
- (2) 商業の形態
- (3) 商業の客体
- (4) 商業の依存関係

5 配給組織

- (1) 配給の意義
- (2) マーケティングについて
- (3) 配給組織—

④集収組織 ⑤仲継組織 ⑥分散組織

6 資本主義の発展と商業

- (1) 商業介入傾向と商業排除傾向
- (2) 協同組合、公企業による商業経営
- (3) 社会主義と商業

テキストとして福田敬太郎著「商学総論」(昭和30年2月、千倉書房刊)を使用する。

数 学

教授 武隈 良一

微分積分学の講義を行う。使用テキスト川上、石川、土倉、矢野共著微分積分学(宝文館発行)

物 理 学

非常勤講師

(北海道学芸大学助教授) 小宮 英太郎

本学の事情に鑑み当然のことながら、物理学の教授にあつては物理学専門教育への導入又は準備という意図は全くない。一般教育(特に非理科学学生への一般教育)という本来の講義設定の趣旨からはずれないように留意して講義をする。

ただ本学の場合にあつては、卒業後実務、特に産業面の実務に従事することが多いと思われるので、最近の産業界の動向、即ち技術革新に應ずる教養を賦与するように努めたい。然し授業時間数の制約その他のため十分の教育を徹底することができないのが遺憾である。例えば自然科学教育の場合、講義のみで終始することなく実験、実習も授業に組み入れられるべきであるに不拘、現状に於ては実施できないことは残念である。

講義に当つては、物理学の学的方法—近代自然科学の範としての—及び、特に最近の目覚ましい物理学の発展、技術との交流、ひいては原子時代に於ける思想への物理学の寄与を強調する。

講義は近代物理学の準備階梯としての最小限度の古典物理学と、近代物理学とに二分して行う。近代物理学の内容としては、原子理論、原子核理論を含む。

テキストとしては 目下のところ 昨年度通り。

学術図書出版社刊 田原秀一著 一般物理学を予定している。(変

更があれば通知する)

化 学

助教授 斎 藤 要

本年度は次記の項目について講義する予定である。

基礎化学概論

原子の化学

生命現象の化学

応用化学概論

無機化学工業 (特にソーダ及び塩素)

有機化学工業 (特に石油及び繊維)

以上の講義の過程において、理論化学、放射能化学及び酵素化学についても論及する。

なお、教科書は使用しないが、参考書は必要に応じて紹介する。また折をみてモデル実験を行う。

生 物 学

非常勤講師
(北海道大学理学部) 向 川 信 一

どのように簡単な体制の生物でも、その個体の生命を維持し、種族を発展させるための機構は誠に巧妙である。人類は太古より、このような生命現象の諸相について数多くの知識を積み重ね、生命の本質を追究し、生物学的法則ともいべき原則の確立に努力を続けてきた。その成果は作物の栽培とか動物の飼育とかの技術の向上をもたらし吾々の生活を豊かにして来たが、更に吾々自身も又この生物の一員であり、人間の営む社会生活の根底に直接、間接に生物学の占める意義を否定することは出来ない。更に又生命の認識、生命体の発生や変化の過程等を巡る諸問題について今も尙鋭い思想的対立があり、それらが又吾々の人生観や世界観或は事物の認識等に関して多くの問題を提示していることも言を俟たない。

講義はテキストを決めず、どの教科書にもある定説化した諸問題を中心に最近のトピックスを加えて問題点を示し乍ら行なう予定である。生物学の教える知識や思考を通して少しでも正しい生命観に至る手がかりを得る結果ともなれば一つの望外な喜びである。

2. 外国語科目

1年必修英語

教授 木 曾 栄 作

講師 宇賀治 正 朋

外国人教師 Wallace W. Smith

テキスト

Wallace W. Smith & Roy W. Collier 共著

"Lit-Oral" (文学作品にもとづいた英語口語教材) (南雲堂)

Ernest Hemingway の作品を Oral の面と結びつけて英語の発音・文型・会話能力の養成とその応用展開能力を伸ばすことを主眼とする。

助教授 脇 田 勇

テキスト

W. S. Maugham : Creatures of Circumstances-Sanatorium (南雲堂)

助教授 飛 田 茂 雄

テキスト

Christopher Isherwood : Goodbye to Berlin (研究社)

講師 久 納 泰 之

テキスト

桃沢力著 An Outline Syntax of Present Day English (金星堂)

講師 宇賀治 正 朋

テキスト

Ernest Hemingway : The Old Man and the Sea (南雲堂)

非常勤講師
(小樽商大短大助教授) 北 村 正 司

テキスト

Saxon Graham : American Culture (開文社)

Mary Haru Chappell 著 英文法と英作文の練習(大学用)(篠崎書林)

非常勤講師 野尻吉之進
(北海道大学文学部助教授)

テキスト

Doris Lessing: The Habit of Loving (金星堂)

2年必修英語

教授 木曾栄作
外国人教師 Wallace W. Smith
外国人講師 Ian G. MacLeod
非常勤講師 北村正司
(小樽商大短大助教授)

テキスト

William L. Clark: Spoken American English (Intermediate Course) (研究社)

1. 英語の音声に認知と発表の両面から熟達させる。
2. 模範会話の暗誦を基礎として、文型練習を行い、会話能力を増進させる。
3. 英語表現力の積極的向上を図る。

助教授 脇田 勇

テキスト

Bertrand Russel: The Conquest of Happiness (南雲堂)

助教授 飛田 茂雄

テキスト

Erich Fromm: The Art of Loving (松柏社)

講師 久納 泰之

テキスト

Truman Capote: Breakfast at Tiffany's (金星堂)

講師 宇賀治 正朋

テキスト

Christopher Isherwood: Sally Bowles (南雲堂)

非常勤講師 野尻吉之進
(北海道大学文学部助教授)

テキスト

Evelyn Waugh: The Loved One (金星堂)

課外英語(1. 2年)

(Reading Assignment)

英語教官担当

1年 テキスト

小川芳男・上野伊栄太 共著

高等英文法(改稿新版)(有精堂)

2年 テキスト

H. W. Nevinson: The English (成美堂)

英語(2)

助教授 脇田 勇

テキスト

W. S. Maugham: A Writer's Notebook (金星堂)

外国人講師 Ian G. MacLeod

テキスト

Agatha Christie: Parker Pyne Investigates (南雲堂)

英文学

助教授 飛田 茂雄

英国文学史

(プリント使用)

外国語実験室 (Language Laboratory) 演習

教授 木曾 栄 作
助教授 脇田 勇
講師 久納 泰之
講師 宇賀治 正朋
外国人教師 Wallace W. Smith
非常勤講師 (小樽商大短大助教授) 北村 正 司

テキスト

1年 Vernon Brown: Improving Your Pronunciation (明隣堂)

2年 William L. Clark: Spoken American English

(Intermediate Course) (研究社)

1年においては英語発音の基礎的練習に重点をおき、併せてリズム、イントネーションの基礎的知識を与えて習熟させる。

2年においては教室授業と連繫させて、学習内容の復習・確認に重点をおき、更にその応用能力の増進を図る。

独 語 I 講師 関 徹 雄

文法書一本で講義を行い、折にふれ語学実験室を用い、文法終了後、短篇小説か教養読本を読む。

使用教科書 関口 著 並行ドイツ語教程(文法篇)300円(三修社)

独 語 II 講師 関 徹 雄

訳読を主とする。中級の現代文学からはじめて、古典へとさかのぼりたい。随時適当な教科書を選択する。ドイツの精神史的特質に触れるように心がける。

仏 語 教授 松尾 正 路

1年. 発音, 文法, 作文, 訳読。

2年作文, 訳読, 翻訳実習。

仏 語 (北海道大学文学部講師) 非常勤講師 太黒 マチルド

1年. 発音, 会話, 書取。

2年. 発音, 会話, 書取, 作文。

中 国 語 I 教授 川 上 久 寿

テキスト

現代中国語入門 香坂順一著 (光生館)

中 国 語 II 教授 川 上 久 寿

漢語教科書

露 語 I 講師 松 本 忠 司

テキスト

1. 東郷正延 <簡約ロシア文法> (白水社)
2. 初等読本(新聞記事, 古典作家の短編小説)
3. 日露会話帳
4. 発音練習用テキスト

露 語 II 講師 松 本 忠 司

テキスト 未定

(古典作家および現代作家の小説。経済学入門書。モスクワ芸術座レパートリーを含む)

西 語 I 助教授 一 色 忠 良

使用教科書 長南実著「スペイン語への招待」¥450(大学書林発行)

37年度の「Primer libro de lectura」を引続いて使用、いますこし文法的知識を習得し講演になれた上で商業文を主としてやっつけていきたい。

3. 保健体育科目

実 技

講 師 杉 山 登
非常勤講師 須 貝 忠 吉

1. 実技種目

① 柔道, 軟式野球, 軟式庭球, 排球, ソフトボール, 卓球, 羽球

② 水泳, スキー

2. 実施内容

① 選択種目一①の種目中より4月~7月迄, 9月~12月迄の2期間に於て各々の期間に1種目を自由選択する。2期間を通じて同種目を選択してはならない。

② 必修種目一水泳, スキーについては全員参加とする。実施期間については, 水泳は6月中, スキーは1月~2月に実施の予定である。猶, この2種目に関する技術合格基準については追つて通知する予定である。

講 義

前期 { 保健(前) (小樽協会病院内科医長) 非常勤講師 山 口 貢
 { 体育理論(後) 講 師 杉 山 登

1. 保 健(前期前半)

2. 体育理論(前期後半)

体育実践の場に於ける諸問題より主として運動生理に関する問題を取りあげ重点的に行う。

4. 専門教育科目

民法 I (小樽商大短大助教授) 非常勤講師 相原東孝

序 説
総 則

- 第1章 人
- 第2章 物
- 第3章 法律行為
- 第4章 期間と時効

物 権 法

- 第1章 総 論
- 第2章 占有権
- 第3章 所有権
- 第4章 地上権
- 第5章 永小作権
- 第6章 地役権
- 第7章 入会権
- 第8章 担保物権概説
- 第9章 担保物権の一般的効力
- 第10章 以下省略

ことしは、従来とちがった方法を採用し、総則のみならず物権法についても、説明を加えたい。もちろん、講義の中心は総則なかんずく法律行為におき、物権法については少くとも物権変動論や所有権をやり、なお時間の余裕があればその他にもふれたい。

教科書：中川善之助著 民法大要(上巻) (勁草書房)

参考書：資本主義民法研究会 民法講義 (民法総則
物 権 法) (文人書房)

民法 II 講師 中川良延

契約法について、とくに判例に重点をおいてやつてゆきたい。一応教科書として下記のことを指定しておくが、それはこの教科書が民法をやる場

合のもつとも基本的なものとされているからであつて、私の講義は、ときに大はばにその内容と変つたものになる予定である。

教科書：我妻栄・有泉亨著「民法II」(一粒社)

参考書：中川善之助編「民法演習判例集・債権各論」(勁草書房)

商 法 I (前期)教授 喜 多 了 祐
(後期)講師 実 方 謙 二

商 法 II 講師 実 方 謙 二

国 際 法 助教授 桑 原 輝 路

- I 国際法の観念
- II 国際社会の構造
 - 1 国際社会の構成
 - 2 国際社会の組織化
- III 国際法的関係の諸形態
- IV 特殊問題(国際経済法に関する若干の問題)

経 済 法 非常勤講師 実 方 正 雄(予定)
(大阪市立大学教授)

統 計 学 助教授 竹 内 清

記述統計、推測統計、経済統計に関する基本を講義するが、本年は例年より若干程度を高める予定である。したがって必要な数学等は前以つて予習しておくよう要求することもある。適宜OR的な問題も講義におりませ

ていく。

テキスト
経 済 学 森田優三編『統計学』(青林書院)
演習講座

数 理 統 計 学 講 師 沼 田 久

記述統計、確率、推測統計に関する基礎的なことを講義する。記述統計

の部分では数学的予備知識も数学的センスもさして必要ではないが、他の部分では多少の数学的センスまたは根気が必要である。

教科書は未定であるが、記述統計については

安川数太郎 内山守常：新統計学（共立出版）

他の部分については

宮沢光一：近代統計概論（培風館）

宮沢光一：近代数理統計学通論（共立全書）

を参考とする予定。

経済原論

講師 藤井栄一

経済変動論

助教授 地主重美

参考図書

- 1 Duesenberry J.S. Business Cycles and Economic Growth, 1958
- 2 Hicks. J.R., A Contribution to the Theory of Trade Cycle, 1950
(古谷弘訳, 岩波)
- 3 Matthews, R.C.U., The Trade Cycle 1959 (訳至誠堂)
- 4 Haberler, G(ed) Readings in Business Cycle Theory, 1944
(後藤他訳, 実業之日本社)
- 5 Hamberg, D. Economic Growth and Instability, 1958
(地主訳, 東洋経済)
- 6 青山秀夫編 日本経済と景気変動 (創文社)
- 7 Bailey, M., National Income and the Price Level, 1962

講義プラン

- 1 序論
- 2 景気理論の沿革
- 3 所得決定メカニズム
- 4 投資の決定(1)―2面効果―
- 5 投資の決定(2)―在庫変動と建築投資―
- 6 投資と市場構造―とくにオリゴポリ―

- 7 景気変動と金融市場
- 8 景気変動と物価
- 9 景気変動と国際貿易
- 10 景気政策
- 11 日本の景気変動
- 12 結論

計量経済学

担当者未定（後期開講予定）

経済史概論

助教授 浜林正夫

- 〔I〕 封建制の構造
 - (イ) 封建制の成立
 - (ロ) 農双制
 - (ハ) ギルド制
 - (ニ) 封建制の上部構造
- 〔II〕 封建制から資本制への移行
 - (イ) 封建制の解体
 - (ロ) 絶対王政の下部構造
 - (ハ) 市民革命
- 〔III〕 資本制の成立
 - (イ) 資本の本源的蓄積
 - (ロ) 産業革命
- 〔IV〕 資本制の展開
 - (イ) 独占資本の形成
 - (ロ) 労働運動の発展
 - (ハ) 帝国主義と全般的危機

社会政策

助教授 吉武清彦

大河内一男著『社会政策』（有斐閣）をテキストに用う。講義の順序は大

体昨年と同様であるが、今年は特にイギリスの資本主義の発展と関連させつつ、社会政策の展開を論述したい。

財政学

講師 早見 弘

資源配分、所得分配ならびに国民所得の安定と成長にたいして、財政収支がどのような機能と効果をもつか、いわゆる予算政策の理論的説明を中心とする。

応用経済学の一分野として、基本的な経済分析方法を修得したものとして講義をすすめる。講義の大要は以下の通りである。

1. 予算政策の目標と手段
2. 財政収支の調整と租税原則
3. 予算決定と投票の役割
4. 予算政策の厚生効果
5. 租税各論
6. 租税転嫁分析
7. 選択的財政政策の理論

参考文献 マスグレイヴ著 阪大財政研究会訳『財政理論』(I, II)

国際経済論

助教授 麻田 四郎

- 1 古典派貿易理論……比較生産費論、国際価値論
- 2 近代的貿易理論……貿易乗数論
- 3 国際経済協力……国内均衡と国際均衡、国際経済協力機構
- 4 経済発展と国際貿易……先進国と低開発国

参考書：藤井茂著、新版国際経済学入門(千倉書房)

ハロッド著、藤井訳、国際経済学<改訂版>(実業之日本社)

商業英語及び貿易実務

教授 木曾 栄作

貿易実務の知識を背景として商業英語の構造的な特異性を講述し、その表現応用能力の養成につとめる。

テキスト

渡辺幸吉著 Living Business English (南雲堂)

金融経済論

助教授 阪口 伸六郎

- 1 金融：意味 種類 機能 制度
- 2 金融市場：意味 種類 機関 特色
- 3 銀行：意味 種類 業務 経営 組織 預金創造
- 4 金利：本体 水準 体系
- 5 金融政策：基準 種類 外国為替政策 正常化 自由化
- 6 マネーフロー分析 「もの」の経済と「かね」の経済 マネーフロー表 所得分析 景気循環の金融的メカニズム 金融市場の動向 経済成長 ケインズ、ハロッド、ベーム、ウイクゼル、ロバートソン、ヒックスなどの理論との関連
- 7 当面の金融問題

参考書はその都度授業中に指示することとし、ここでは和書「経済循環と金融市場」山口茂著(東洋経済新報社発行)のみをあげておく。

銀行論

教授 藤沢 正也

講義内容

- I, 経済変動における貨幣、信用の役割
- II, 銀行経営の動機
- III, 金融機関の構成と金融市場
- IV, 金融政策の問題点

保険論

教授 久木 久一

保険の概念一本質、組織、種類、保険料と責任準備金

保険契約

- 1 序 説
- 2 保険契約の締結
- 3 保険契約の変更
- 4 保険事故の発生

5 保険契約の消滅

海上保険論—被保険利益, 海上危険, 海上損害

本年度は契約論に重点を置き, 時間の許す限り海上保険を講ずる予定。

証券市場論

講師 進藤 寛

講義の目的—金融市場の一部としての証券市場の実態と役割りを明らかにすること。

講義の内容

- 1 証券市場論の目的と範囲(とくに金融論との関係)
- 2 擬制資本
 - (イ) 擬制資本と利子生み資本
 - (ロ) 擬制資本と金融資本
- 3 証券市場の構造と実態
 - (イ) 証券市場と金融市場
 - (ロ) 発行市場(証券発行の形態と証券の種類についてもふれる)
 - (ハ) 流通市場(証券取り引き形態, 投資信託を含む)
 - (ニ) 各国証券市場の類型
 - (ホ) わが国証券市場の特殊性
- 4 証券市場と金融政策
 - (イ) 所要マージン率変更と公開市場操作
 - (ロ) わが国金融市場構造と金融政策の問題点

〔備考〕教科書を使用しない。文献目録を配布する。

証券金融論

非常勤講師 住ノ江 佐一郎
(神戸大学経営学部教授)

経営経済学

非常勤講師 室谷 賢治郎
(小樽商大短大教授)

- I 序説(研究の対象と方法)
- II 企業と経営者
- III 企業形態
- IV 経営管理

V 経業労務

VI 経営財務

VII 利益管理

テキストに古川栄一著「新版経営学通論」(昭和36年3月新版, 同文館出版株式会社発行)を使用する。

簿記学

講師 久野光朗

最初の授業時間で授業計画および学習方法について説明をする予定ですが, 一応講義の進め方を示すと次のようになります。

- § 1 総論
- § 2 貸借理論
- § 3 勘定理論
- § 4 帳簿組織論
- § 5 決算理論

テキストは下記のものを使用する。

石河英夫, 「商業簿記要論」(お茶の水書房, 1953)

商業数学

教授 武隈良一

商業数学といえば普通に, 利息算, 年金算, 減価計算などを意味するが, ここでは広く解釈して, 商業, 経済, 経営に必要な数学, それも主として代数学を講義する。一般教育科目の数学においては微積分を一通り修得するので, それ以外の数学として代数学初歩を紹介するのが目的である。数学専門家のための代数学ではなく, 応用数学としての代数学である。従って内容は行列式, 行列, 代数方程式, 定差方程式などである。

(なお, 管理科学コースを目指す学生は, この商業数学の単位をとってから次年度に開設される応用数学Ⅱへと進むことが必修となっている。)

使用テキスト

1. 古屋茂著 行列と行列式(培風館発行)
2. 高橋健人著 差分方程式(培風館発行)

会計学

教授 石河 英夫

- 第1章 会計学の概念
- 第2章 企業会計の本質
- 第3章 企業会計の機能
- 第4章 会計学説の展開
- 第5章 企業会計の基礎的前提
- 第6章 企業会計原則
- 第7章 資産会計
- 第8章 資本会計
- 第9章 剰余金会計
- 第10章 損益計算
- 第11章 棚卸資産の評価
- 第12章 減価償却

応用数学 I

講師 戸島 瀧

講義の内容は、解析学であるが、基本的事項の徹底的理解を期するため初歩的諸概念の解説にも十分時間を割きたいと考えている。講義の目的は数学（とくに解析）の社会、経済現象への応用の基礎をつくることである。そこで講義では純粋数学の解説と共に応用例も併せてのべることにしたい。なお、数学の理解には演習を行う以外には王道はないので時間の許すかぎり演習を行う予定である。

講義の具体的細目に関しては、開講日にふれる。また、通年で特定のテキストを使用することはない。

応用数学 II (代数 II)

教授 古瀬 大六

前年度の代数 I (商業数学) に接続し、経済学、管理科学に必要なより高度の代数学についての知識を与えることを目的とする。管理科学コース選択者にとっては、応用数学 I, III と共に必修課目である。

- 1 線型不等式
- 2 線型計画法

- 3 数学的計画問題
- 4 非負行列と固有値
- 5 効率的計画問題
- 6 変分問題

参考書

- 1 二階堂：経済のための線型数学（培風館）
- 2 Bellman: Introduction to Matrix Analysis, 1960.

応用数学 III

講師 沼田 久

確率、推測統計、標本調査、品質管理等の基本を講義するが、数理統計学の講義にオーバーラップするように始まって、より程度を高める。多少の数学的センスまたは根気が必要である。

教科書は未定であるが

- 宮沢光一、近代統計概論（培風館）
- 宮沢光一、近代数理統計学通論（共立全書）

を参考とする予定。

経済学特殊問題

非常勤講師
(北海道大学経済学部講師)

降旗 節雄

日本経済史

非常勤講師
(小樽商大短大教授)

室谷 賢治郎

- I 原始時代
 - 1 社会組織
 - 2 経済生活
- II 氏姓時代
 - 1 氏姓制度と国家の編制
 - 2 生産と流通
- III 律令時代
 - 1 大化の改新
 - 2 班田制下の社会階層
 - 3 農工業と商業
 - 4 荘園の発達
- IV 中世封建時代
 - 1 武家政治と社会機構
 - 2 農業～工業～商業～交通
- V 近世封建時代

- 1 中央集権と鎖国 2 農業～工業～商業～交通～金融

VI 資本主義時代

- 1 明治維新と経済改革 2 殖産興業 3 産業革命
4 企業集中と独占 5 対外貿易の伸長 6 労働運動の発展

農業経済学

教授 藤沢正也

本年度のテーマは、農業経営の近代化

- I 農業における資本主義の発達
II わが国における農家経営の現状分析
III 農業政策の問題点

海外証券事情

非常勤講師

岡林豊樹(予定)

(野村証券海外企画調査課長)

工場経営

助教授 伊藤森右衛門

前期

I 工場経営創設論

- ① 経営位置の選定 ② 経営規模の決定
③ レイアウトの策定 ④ 管理組織の立案
⑤ 要員の採用、配置

後期

II 工場経営管理論

- ① 経営計画の体系 ② 生産統制の方式
③ 労務管理の方法 ④ 工場事務の手續
⑤ オートメーション

財務管理

教授 古瀬大六

長期及び短期の投資計画についての数学的理論を紹介する。

統計I(数理統計学)代数I(商業数学)解析I(数学)を受講済みであることを前提とする。

- 1 投資、割引率、利潤
2 耐用命数又は取替時機の決定
3 設備の選定と線型計画法
4 不確実性の導入
5 確率過程論的取扱い
6 減価償却費と取替政策
7 証券投資(ポートフォリオ・セレクション)

参考書

Massé: Optimal Investment Decision

原価計算

講師 久野光朗

最初の授業で授業計画について説明をする予定ですが、一応講義の進め方は次のようにしたいと考えています。

- § 1 総論
§ 2 実際原価の計算
§ 3 標準原価の計算
§ 4 原価差額

テキストは特に指定いたしません。各自に必ず「原価計算基準」および「製造工業原価計算要綱」を用意してください。

監査論

非常勤講師
(甲南大学経営学部教授)

近沢弘治

職業指導

非常勤講師

阿部利雄

I 職業に関する諸側面の検討

- 1 職業の社会的側面
2 職業の心理学的側面

- 3 職業の経済学的側面
- 4 労働科学的側面
- II 職業研究の諸課題
 - 1 職業構造論
 - 2 職業動態論
 - 3 職業配分論
 - 4 職業類型論
 - 5 職業意識論
 - 6 職業生活様式論
 - 7 職業人的資質論
- III 職業選択及決定に関する諸研究
 - 発生学的職業選択の研究
 - 職業選択の類型化と段階説
- IV 職業発達理論
 - 発達の要素的研究
 - 職業成熟示標
- V 職業経歴類型と生活段階説
- VI 自我概念の発達
- VII 職業指導効果測定と成功示標
 - 効果測定と予測に関する諸研究
- VIII 職業指導の技術概要

5. 教職に関する専門科目

教育原理

講師 田中昭徳

- I 歴史的社會現象としての教育
- II 教育を規定する諸要因
 - (イ) 教育におよぼす経済の影響
 - (ロ) 政治と教育
 - (ハ) 文化、科学、宗教と教育
- III 教育学の発達と教育学の諸類型
- IV 意図的教育
 - (イ) 教育の目的および陶冶理想
 - (ロ) 教育課程
 - (ハ) 教育過程と教育方法
 - (ニ) 教育制度
 - (ホ) 教育政策
 - (ヘ) 教師
- V 社会形成力としての教育—未来におよぼす教育の力と限界

教育心理

講師 馬場道夫

教職の必修単位であるために、教育場面の心理に重点がおかれるが、知能、性格検査、カウンセリングは産業心理学の補充としてもとり扱う。このため本来3単位であるが、4単位分の時間をあてる。

- 第1章 教育と心理学
- 第2章 発達
- 第3章 準備性
- 第4章 青年期
- 第5章 態度と性格の測定
- 第6章 能力の測定
- 第7章 教育における学習
- 第8章 態度の形成
- 第9章 カウンセリング

第10章 学校と教師の心理

参考書

中野佐三 教育心理

F. J. Mc. Donald Educational Psychology.

なお適宜、諸検査等の実習を行う。

商業科教育法

非常勤講師 金巻賢字
(小樽商大短大教授)

これは教職課程の必修科目である。単位数が3単位であるので4～11月の間に講義を行う。参考書は講義の際に、その都度紹介することにした。講義の内容は次のとおりである。

第一章 我国における商業教育の発展

第二章 欧米における商業教育とその特徴

第三章 商業教育の現状と問題点

第四章 商業課程—とくに「商業一般」と「商業簿記」について

第五章 教師論

教育実習

非常勤講師 金巻賢字
(小樽商大短大教授)

これは教職課程の必修科目である。緑陵高校を実習校として10月頃に約3週間にわたって行われる。指導は実習校の教官が担当されるので、学生は数名ずつ組分けされる。「商業一般」と「商業簿記」について、そのうちなるべく学生は「商業簿記」で指導を受けるように心掛けて置かれる。最初の1週間は授業参観であるが、第2週目からは教壇実習が始まる。少くとも1回は教生として教壇に立つて、高校生相手の授業をしなければならぬ。

教育史

講師 田中昭徳

I 近代教育の胎動

1 都市の興隆と学校および大学の発達

2 人文主義と近代教育思想への動向

3 宗教改革と義務教育制度の建設

II 絶対主義国家の教育

1 教育権の国家への移行

2 錬金術的教育学—コメニウス

3 イギリス

4 フランス

5 プロイセン

III 市民革命期の教育思想と学校制度の改革

1 ロックとルソー

2 フランス革命議会の教育計画

3 プロイセン革命とW. V. フンボルト

4 アメリカ革立革命とその国民教育計画

IV 産業革命と普通教育

1 アダム・スミスとペスタロッチ

2 産業革命と少年労働問題

3 ロバート・オーエン

4 ホレーズ・マンとアメリカ普通教育制度

V 資本主義の成熟と教育

1 教育の機会均等と「統一学校」運動

2 産業教育振興政策

3 革新勢力の成長とその教育要求

VI 日本における「近代教育」の成長

[テキスト] 皇 至道著 『西洋教育通史』(玉川大学出版部刊)

6. 管理科学科目の履修に関する注意事項

1. 管理科学科目の科目体系:

昭和40年度において設置される予定の管理科学科目の科目体系は下記の如きものとなるであろう。

一年度生	数 学 (解析Ⅰ)	商業数学 (代数Ⅰ)	数理統計学 (統計Ⅰ)	
二年度生	応用数学Ⅰ (解析Ⅱ)	応用数学Ⅱ (代数Ⅱ)	応用数学Ⅲ (統計Ⅱ)	計 算 機 論
三年度生	管理科学Ⅰ (経 済)	管理科学Ⅱ (生 産)	管理科学Ⅲ (販 売)	数 値 計 算
四年度生	研究指導Ⅰ (経 済)	研究指導Ⅱ (生 産)	研究指導Ⅲ (販 売)	機械化会計

上記諸科目以外に所定の一般教育科目を履修しなければならないこと、勿論である。更に、経済・商業関係の諸科目のうち重要な数科目をも必修として追加する計画である。研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、そのうち何れか一つを履修すればよい。然し、希望により他の研究指導に出席することも認められるであろう。

以上の結果、本学の学科は、経済学科、商業学科、管理科学科の三本立てとなるであろう。

2. 管理科学科目の開設計画:

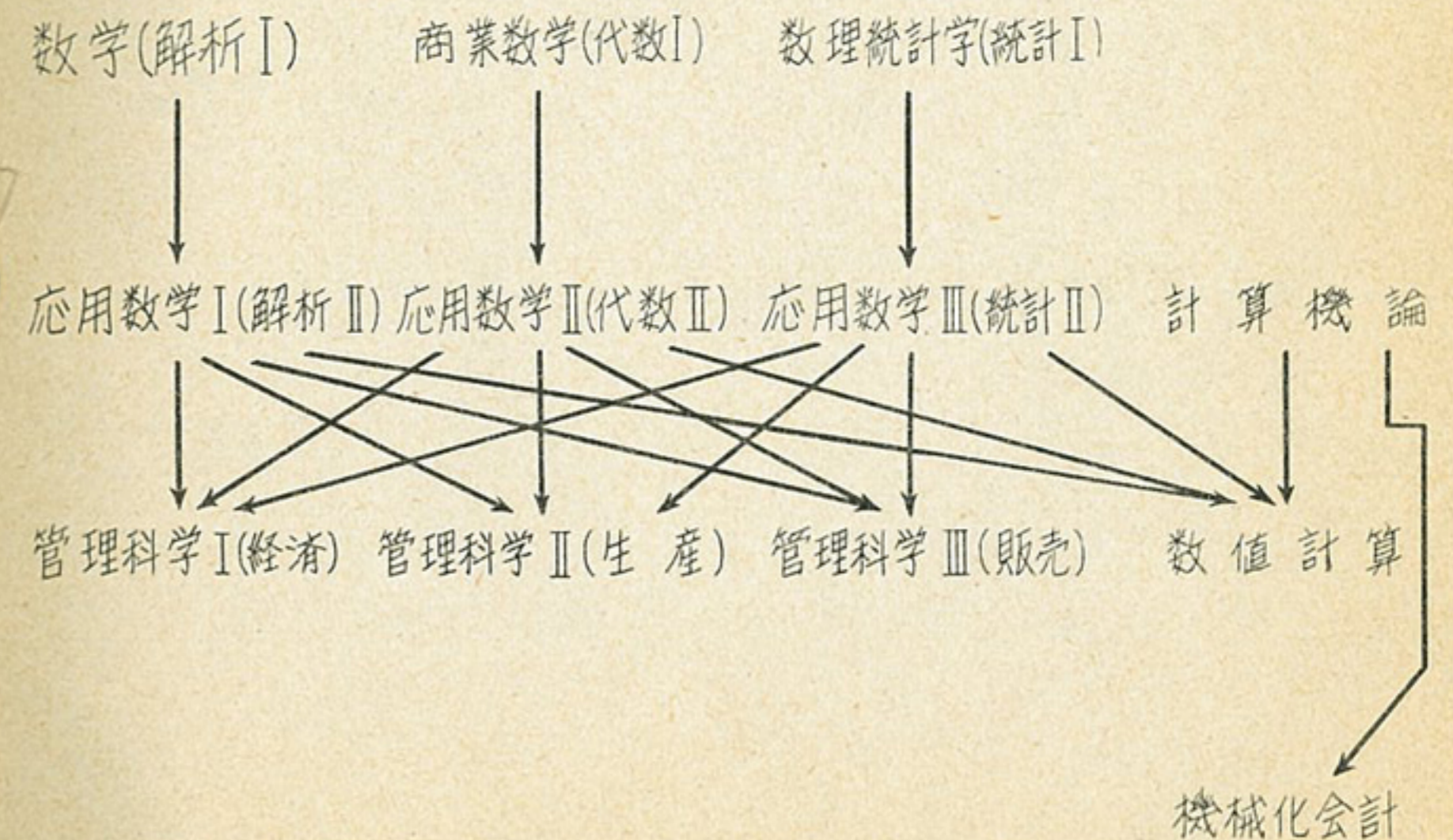
上記管理科学関係15科目のうち、38年度において開講される科目は、一年度生向けの「数学」、「商業数学」、「数理統計学」、及び二年度生向けの「応用数学Ⅰ」、「応用数学Ⅱ」、「応用数学Ⅲ」の6科目である。

39年度においては更に、「管理科学Ⅰ」、「管理科学Ⅱ」、「管理科学Ⅲ」及び「計算機論」、「数値計算」の5科目が追加開講され、40年度においては「機械化会計」が加わる。また、学則上には記載されていないが、40年度において「研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」が加わり、管理科学科として完成することになるであろう。

然し、現在においては、学則上認められている学科は、商業・経済の二学科のみであるので、これら諸科目は一般教育科目、専門科目(共通科目)の中の一科目として取扱われており、管理科学科の正式発足(昭和30~40年度)をまつて、管理科学科の必修科目に振り替えられることになるであろう。

3. 二年度生に対する注意事項:

- (1) 昭和40年度において管理科学専攻者として卒業するためには、本年度において「応用数学Ⅰ」、「応用数学Ⅱ」、「応用数学Ⅲ」を履修し、その試験に合格しておかなければならない。
- (2) それ以外に、商業・経済学専攻者の必修科目である「民法Ⅰ」、「統計学」、「経済原論」、「経済史概論」、「経営経済」、「簿記」をも併せて履修しておかなければならない。これらの科目は、将来商業・経済・管理科学の三科目中の何れに進むとしても、必修科目として扱われる。
- (3) 37年度において「計算機論」を受講し、その試験に合格したものは、39年度に改めて「計算機論」を受講する必要はない。
- (4) 各科目(研究指導を除く)は、専攻及び学年の如何を問わず、全学生に開放される。然し、下記のような Pre-requisites 関係があるので、



基礎となる諸科目を履修せずに直ちに程度の高い科目を履行することには非常な困難を伴うであろう。

- (5) 以上のような必修科目の編成をもっているので、三年度以降において管理科学専攻に編入を希望しても、在学年数を延長せぬ限り、管理科学専攻者として卒業することは不可能である。
- (6) 然し、反対に、二年度ににおいて管理科学諸科目を履修したものが、三・四年度において他の専攻に移ることは可能であろう。